

OXFORD

学習者辞書の勧め方

日本語版指導の手引き

ロブ・ウェアリング 高橋 幸子：ノートルダム清心女子大学

オックスフォード大学出版局

目次

1. はじめに	p. 1
2. なぜ、辞書を使うスキルを教える必要があるのでしょうか？	p. 1
3. どんな種類の辞書があるのでしょうか？	p. 2
4. 二カ国語辞書と学習者用辞書では、どちらが良いのでしょうか？	p. 6
5. 学習者用辞書に移るには？	p. 7
6. なぜ、日本人の学生は、学習者用辞書を拒絶するのでしょうか？	p. 8
7. 学生には、どの学習者用辞書が一番良いのでしょうか？	p. 8
8. 日本人の学生は辞書をどのように使うのでしょうか？	p. 9
9. 日本人の学生は上手に辞書が使えるのでしょうか？	p. 9
10. 辞書を使うときに、日本人学生にはどんな困難があるのでしょうか？	p. 10
11. 学生はいつ辞書を使うべきでしょうか？ また、使ってはいけないときはどんな場合でしょうか？	p. 11
12. 授業での辞書使用を奨励する	p. 14
13. 辞書の使い方トレーニング	p. 15
14. 語彙の扱い方	p. 22

1. はじめに

英語学習の際の最も大切な手段として、辞書が挙げられることはまず間違いありません。ところが、辞書の効果的な使い方を学ぶという恩恵を受けてない学生が極めて多いのです。この手引きは、学生たちに辞書を効果的に使わせて、辞書が単に単語を並べたものではないことを理解させる際の問題点を考えていただくために用意したものです。また、学生の辞書の使い方を訓練する方法も考えていきます。

2. なぜ、辞書を使うスキルを教える必要があるのでしょうか？

辞書を使わなければならない理由はいくつかあります。

- ・学生たちに、自分たちの学習をコントロールさせ、学習に対する責任感を持たせます。
- ・だれしも生まれつき辞書をうまく使えるわけではないのです。だから、辞書をうまく使うことができるようになるための知識とスキルを獲得する必要があります。
- ・事象を明らかにしていくことによって、学生達が情報を解き明かしていくことを手伝います。
- ・辞書は、自然に、意味や言語についてたくさん考えさせます。
- ・学生たちが辞書をうまく使っていければ、教室での混乱状態は最小限ですみます。教師は、学生達が正しい意味をつかめると安心していただけるからです。
- ・教師自身が何かについて確かめたい時はもちろん、学生達に自分たちが建てた推測を確かめさせたい時に必要なサポートをしてくれます。
- ・辞書は、コミュニケーションと教室でのインタラクションのために中心となって機能してくれます。
- ・辞書のトレーニングは、学生達が自分の好みや学習スタイルを開発するのを助けてくれ学生達が新しい学習モードに到達するのに役立ちます。

辞書は、個人学習のためのツールとしてだけでなく、全ての種類のコミュニケーション中心のアクティビティやインタラクション中心のアクティビティの踏み台となるのです。辞書をインタ

辞書は、単に、語と意味をリストアップしたものではありません。

ラクシヨンの手段として開発することによって、学生達が辞書の使い手として、また、言語学習としての自信を育てていくのを手伝えることができます。大事な利点とは、学生たちが多くの言語に出会い、また、その出会いが、さらにその言語を経験し、開拓するのに役立つことです。

多くの教師が辞書を使うスキルを教える必要性を理解しているにもかかわらず、実際には、辞書の使い方を教えていません。その理由は次の通りです。

- ・多くの教師が、学生達は日本語で辞書を上手に使えると思っているので、英英辞典をどうやって使うのかをわかるだろうと思っています。
- ・教師の中には、学生達が英英辞典を敬遠し、英日辞書に頼って、せっかく教えようとした努力が無駄になってしまうと思っている人がいます。学生に英英辞典を使わせるように説得するのは、時間もかかり、教師の側にも学生の側にも努力が必要です。
- ・辞書を使う作業は、カリキュラムの中に入れていません。
- ・辞書を使う作業は、面白いことであるとは思われていません。
- ・教師は、辞書の中に何が書かれているのか、英英辞典をどう学生に紹介していくのかははっきり理解していません。
- ・学生達は全員が英英辞典を持っているわけではないので、トレーニングが困難です。

こうしたことを信じているために、多くの教師は、学生達が日本語での辞書を使うスキルは十分に持っていると思っています。ですから、教師は学生に英英辞典の使い方を教えることに時間を使わないのです。

3. どんな種類の辞書があるのでしょうか？

辞書の種類はいくつかあります。日本でよく使われている辞書は、二カ国語辞書と学習者辞書ですが、他にもいくつかの種類があります。

二カ国語辞書 これらの辞書は日本語と英語の両方を使っているので、二カ国語辞書といいます。これらの辞書は、日本で最もよく使われている辞書です。

これは、母語話者のためのものです。一般に student's dictionary と呼ばれるものは、母語話者の学生用に作られた一カ国語辞書です。これらは、学習者辞書とは全く異なります。ただし、*Oxford Student's Dictionary* のように英語学習者のためのものもまれにあります。

学習者辞書は、外国語として英語を学ぶ学習者用に書かれた英英辞書です。様々なレベルでの辞書があります。*Oxford Wordpower Dictionary* のように、簡単な定義と短い単語リストが付いた初級者用の辞書から、*Oxford Advanced Learner's Dictionary* のように母語話者のレベルまでのものがあります。学習者辞書は、母語話者が使う辞書とは違います。学習者辞書は、その言語を学習している過程の学生達のために専門家によって書かれたものなのです。学習者用辞書にも、いくつかの種類があります。

良い学習者辞書というのは、スペリングや発音や意味の範囲を超えた多くの特徴を持っています。文化的な意味や、その語がフォーマルなものなのか、時代遅れなものなのかといった情報を扱うスタイルノートなどもあるでしょう。またこれらの辞書は、例えば assassinate（暗殺する）murder（殺害する）kill（殺す）などの同じ様な意味を持つ語をはっきりさせます。ほとんどの学習者用辞書は、ポキャブラリー・ビルディングに関するアドバイスや辞書を上手に使うためのスタディ・ノートが載っています。こうしたものは、普通、辞書にある文法の使い方や（方言などのノート）のプラスアルファの部分です。

ほとんどの学習者辞書は、最もよく使われ、役に立つ英単語を使って、定義するように、書かれています。例えば、*Oxford Wordpower Dictionary* は、2500 語のよく使われる語彙を使って定義しています。辞書の中の定義は、この 2500 語内で納められています。学生がその定義を理解する機会を最大限にするように工夫してあるのです。また、全てのオックスフォードの学習者用辞書は、膨大な資料を使って作られています。辞書を作る側は、語の意味や、どのように本当の言語が使われているのかを見つけだすために、何百万もの英語の語を調べているのです。ですから例えば、この資料を使うことによって、言葉の意味を決める際も、辞書を書いている人の単なる勘で選ぶのではなく、実際に使われている言葉から引き出すことができるのです。

borrow/lend

borrow /'bɒrəʊ/ **verb** [I,T] borrow (sth) (from/off sb/sth) **1** to take or receive sth from sb/sth that you intend to give back, usually after a short time: *I had to borrow from the bank to pay for my car.* • *We'll have to borrow a lot of money to buy a car.* • *Could I borrow your pen for a minute?* • *He's always borrowing off his mother.* • *I borrowed a book from the library.*
 → be careful not to confuse borrow with its opposite lend.
2 to take sth and use it as your own; to copy sth: *This idea is borrowed from another book.*
borrower /'bɒrəʊə/ **noun** [C] a person who borrows sth

court /kɔ:t/ **noun** **1** [C,U] a place where legal trials take place and crimes, etc are judged: *A man has been charged and will appear in court tomorrow.* • *Bill's company are refusing to pay him so he's decided to take them to court.* **2** the court (sing) the people in a court, especially those taking part in the trial: *Please tell the court exactly what you saw.* **3** [C,U] an area where certain ball games are played: a tennis/squash/badminton court

► Compare pitch.

court /kɔ:t/ **verb** [T] **1** to try to gain sb's support by paying special attention to him/her: *Politicians from all parties will be courting voters this week.* **2** to do sth that might have a very bad effect: *Britain is courting ecological disaster if it continues to dump waste in the North Sea.*

courteous /'kɜ:tias/ **adjective** polite and pleasant, showing respect for other people → opposite discourteous –courteously **adverb**

courtesy /'kɜ:tasi/ **noun** (pl. courtesies)
1 [U] polite and pleasant behaviour that shows respect for other people: *She didn't even have the courtesy to say that she was sorry.* **2** [C] (formal) a polite thing that you say or do when you meet people in formal situations: *The two presidents exchanged courtesies before their meeting.*
 [by] courtesy of sb (formal) with the permission or because of the kindness of sb: *These pictures are being shown by courtesy of BBC TV.*

ピクチャー・ディクショナリ 学習者辞書のもう1つの種類にピクチャー・ディクショナリがあります。この辞書は、語の意味を絵に描いて説明します。この辞書が役に立つと考えている教師や学生は少なくありません。

45. paint pan ペンキ入れ	49. masking tape マスキングテープ
46. paint roller ペンキローラー	50. sandpaper 紙ヤスリ
47. paintbrush ペンキはけ	51. chisel のみ
48. scraper 削り器	52. plane かんな

マルチメディア辞書は、コンピュータ上や CD で使う辞書です。マルチメディア辞書
Oxford Wordpower Dictionary CD-Rom は、マルチメディア辞書の一例
 です。



ほとんどの教師や学生は、この辞書を知らないでしょう。この辞書
 は、他の辞書とは違った働きをするからです。プロダクション辞書
 は、同じトピックの語やほとんど同じ意味の語を比較しやすい
 ように位置した辞書のことです。この辞書の利点は、学生が単語
 を簡単に見つけることができる点です。普通の一カ国辞書の場合
 だと、母語話者は既に知っている語の意味を引きます。*Oxford
 Learner's Wordfinder Dictionary* からの一例を見て下さい。ここでは、
 borrow と同じ様な意味を持ついくつかの語が並べてあります。



4. 二カ国語辞書と学習者用辞書では、 どちらが良いのでしょうか？

端的に言えば、このどちらでもなく、どちらでもあります。二カ国語辞書と学習者用辞書のどちらかをと考えるはいけません。

二カ国語辞書と学習者用辞書は、どちらか一方を選ぶというような使い方はしません。どっちが良いというのではなくて、両方使って、うまくいくのです。

二カ国語辞書の利点

- ・二カ国語辞書の方が、多くの学生が意味を掴むのが速くなります。
- ・英語での定義を理解することができない学生には、とても役に立ちます。
- ・意味が日本語で書かれているので、一種の安心感を与えます。

多くの学生は、知らない単語に出会ったときに自動的に、もしくは無意識に、二カ国語辞書に手を伸ばします。これを、「二カ国語辞書反射」と呼びます。これは、長期間にわたるマイナス効果があるため、教師や学生は用心しなければいけません。二カ国語辞書は、「今、調べている語の意味を知りたい」という学生の差し迫った要求を満たすためには十分役に立ちますが、長期間にわたるゴールは、英語で役に立てることなのです。これは、学習者用辞書で達成されます。でも、気を付けて下さい。学生がその準備ができた時に使わなければいけないのです。

多くの教師や学生は、二カ国語辞書が言語学習に悪いと思っていますが、これは誤りです。こうした批判の中には、次のような理由があります。

- ・二カ国語辞書は、二つの言語において、平行した世界があるという概念を強化する。実際、日本語における多くの概念は、英語において存在しないし、訳すこともできない。また、その反対の現象もあり得る。
- ・二カ国語辞書は、訳すことが語を学習する最善の方法であるという概念を強調する。
- ・どのヘッドワードにも2つ以上の訳があり、学生は、その中でどれを使うのが正しいのかわからない。例えば、英語では、weak tea（薄いお茶）とか、weak man（弱い男）とは言いが、「軽いたばこ」と言うときに、weak cigarette と言わないで、mild cigarette と言う。

これらの批判は、言語学習における母語の使用に関してバランスのとれた観点を取るとしたら、かなり不公平であると言えます。更には、批判されるべきなのは、辞書ではなく、その使われ方、及び乱用のされ方でしょう。これらの批判は、二カ国語辞書の利点と言語学習におけるこれらの辞書の位置付けを無視しています。例えば、英語での定義を理解することを初級者に期待することは無理です。おまけに、理解するための手段として訳すことは、他の方法と比べて良いことはなく、速く訳すだけで精一杯、深い分析をするのは、訳した後でといったことが起こります。

テキストの内容理解には、二カ国語辞書で十分ですが、本当のゴールは、英語で学習することです。このゴールは、学習者用辞書を使って達成されます。

このように、二カ国語辞書と学習者用辞書を使うことは、どちらか片方によってもいけない選択です。これらの辞書は、互いに補うものであって、競合するものではありません。両方の辞書とも、それなりの果たす役割があるのです。しかし、言語をうまく学習するためには、学生はその言語を使って学習しなければいけません。学習者は、結局は、学習者辞書に慣れ、二カ国語辞書に頼らないようにしなくてはいけないのです。教師としての我々のつとめは、二カ国語辞書の使用をやめさせることではなくて、むしろ、賢い使い方を勧めることでしょう。まずは、二カ国語辞書をうまく使ってから、学習者用辞書に上手に慣れさせるいくことです。二カ国語辞書を完全に捨て去ってしまうのは、得策ではありません。少なくとも、すぐには良くありません。1年以上はかけて、学習者を「二カ国語辞書反射」から抜け出させ、学習者辞書の賢明な使用に移行させていかなければいけません。後の項で、またこの詳しいやり方について触れます。

5. 学習者用辞書に移るには？

学習者の準備ができたときに、二カ国語辞書から学習者用辞書にアップグレードしなければならない理由がいくつかあります。

- ・学生は、辞書を使いながら、英語を練習していきます。
- ・学習者用辞書を使いこなすには、努力しなければいけないので、情報が保持されて、そのまま残ると報告している研究があります。
- ・全ての語が他の語との関係の中に存在し、学習者用辞書を使うことによって、学生はこの関係に出会うことができます。その結果さまざまな語彙を受け入れ、構築していくのです。
- ・多くの語は、容易に訳すことはできないのです。

教師としての私たちのつとめは、二カ国語辞書を使うことをやめさせるのではなく、二カ国語辞書から始めて、うまく学習者用辞書を使うことに向けさせていくことです。

6. なぜ、日本人の学生は、学習者用辞書を拒絶するのでしょうか？

日本人学習者が学習者用辞書より、二カ国語辞典を好むことは良く知られています。その理由はたくさんあります。

- ・学生に、無理矢理教科書を買わせることはできません。しかし、彼らは、良く理解できない辞書やなじみのない辞書を買いたいとは思わないのです。
- ・学生は、自分が知っているもの、つまり、昔から使っている二カ国語辞書という安全性を好みます。
- ・学生は、どのタイプの学習者用辞書が使えるのか、また、どうやって選ぶのかも知りません。
- ・ほとんどの学生は、学習者用辞書の定義に使われている語彙を理解するための語学力(大体 2000 語レベル)に達していません。
- ・学生の間では、ほとんどの学習者用辞書が難しいと信じられています。ほとんどの学生が教示なしで辞書を効果的に使うことができなければ、このことは驚くべきことではありません。
- ・学習者用辞書を使うことを学ぶことは、とても大変なことだと思われています。多くの学生は、めんどろなことをしたくないのです。
- ・学習者用辞書を買って使ってみても、あまり成果が出ず、全ての学習者用辞書を敬遠してしまうことがあります。成功したという感じが得られないのは、学生が準備ができる前に学習者用辞書を使ったことによって起こったのかもしれませんが、または、十分なトレーニングをしていなかったのか、間違ったレベルの辞書を買ってしまったせいかもしれないのです。

適切、かつタイムリーな辞書のトレーニングをすることによって、学生の恐れを和らげてあげるのが教師の仕事です。

7. 学生には、どの学習者用辞書が一番良いのでしょうか？

もしできれば、辞書を選ぶときに、学生に好みをきいてあげてください。授業で使う辞書を選ぶときには、いくつかの要因を考えなければいけません。

- ・見出し語の数。
- ・見出し語の質（定義を容易に理解できるか、例がよい、等）。
- ・学生の熟達度。
- ・辞書の特徴（情報の頻度、付録、等）。
- ・発音のシステムを簡単に理解できるか。
- ・辞書の中のシンボルを簡単に理解できるか。
- ・レイアウトの良さ。
- ・辞書のトレーニングができるかどうか。
- ・価格と入手可能であること。
- ・サイズと重さ（大きいことが必ずしも良いことではありません）。

8. 日本人の学生は辞書をどのように使うのでしょうか？

日本人の学生は、語彙を増やす主な方法として辞書を使うということが研究で示されています。また、彼らが辞書の特質のごくわずしか利用していないとの研究報告もあります。

つまり学生が辞書を使ってやっていることは、主に以下の二点になります。

- ・語のスペリングを確認すること。
- ・語の意味や訳を調べること。

なにがしかの辞書の使い方を習ったのは、日本人の学生のたった 15 % しかいないという研究報告があります。

反対に、学生がほとんどやっていないことをあげてみます。

- ・語が存在しているかどうかをチェックする。
- ・同義語や連語を探す。
- ・発音やストレスを探す。
- ・語の文法をチェックする。
- ・語の用法を見る。
- ・語尾の変化や派生語を探す。

さらに全くやってないと思われることは、辞書をめくって、新しい語を探すことです。

9. 日本人の学生は上手に辞書が使えるのでしょうか？

日本の大学生の大部分は、どんな種類の辞書でも、使い方をしっかり教えて貰ったことがありません。日本語の辞書でも、二カ国

語の辞書でも、使い方に時間をかけていません。辞書のトレーニングがあったとしても、1時間だけで終わっていますし、そうしたトレーニングはとても限られていて、正しい意味を見つける目的だけのものなのです。ですから、学生が語や意味を不適切に選んで、辞書を効果的に使うことができなくても仕方がないことなのです。

日本でのほとんどの辞書のトレーニングは、1回の授業時間内で済ませてしまうとの調査報告もあります。

例えば、スペリングや発音を調べるとか、語が存在しているかどうかを見るとかというような具体的なタスクの場合には、辞書使用に関する成功率は極めて高くなるという研究があります。しかし、そのタスクが、例から文法構造を探し出すとか、適切な語の関係を探し出すなどのあまりにも多くを要求するものであれば、成功率は極めて低くなります。日本におけるほとんどの辞書活動は、すぐその場で必要なことに集中しています。例えば、文章の中の語の意味を見つけだすようなことです。そういった場合、一旦、意味を見つけたら、他には何もしないで、そのまま忘れてしまいます。こうして、多くの学生が同じ語を何回も何回も繰り返して、調べることになります。こうしたことから、日本人の学生は自分の辞書の使い方と、もっと効果的に語彙を学ぶトレーニングをする必要があることがわかります。これについては後の項で詳しく説明します。

10. 辞書を使うときに、日本人学生にはどんな困難があるのでしょうか？

辞書を使うときには、学生には多くの困難があります。このような問題は全て、効果的なトレーニングで解決されるのです。

正しい見出し語を見つける

最初の困難は、辞書の中の語を見つけることです。多くの語については、これは極めて簡単なことです。しかし、とても複雑なタスクになる語もあるのです。学生が出ているだろうと思った語の形は辞書には載っていないことが多いのです。例えば、walked や incomprehensible は、walk や comprehend の見出し語の下位項目にあります。多くの学生は、walked が walk の中にあるということはすぐにわかりますが、incomprehensible が comprehend の中にあるとは、なかなかわかりません。これは、意味が比喩的であったり、慣用句であったりする場合には、もっと難しくなります。例えば、make a mistake、kick the bucket、learn the

ropes、see you later などほどの見出し語で調べたらよいのでしょうか？

bank や duty のように、多くの語はいくつかの意味を持っています。今までの研究では、学生は大抵、一旦語の形を見つけたら、いくつかの意味のうち、最初のものを選んで残りの意味を見ていないことがわかっています。ただし、例えば bank のようにいくつかの意味のうち、それぞれが明らかに異なる場合は、学生は正しい見出し語を簡単に見つけることができます。反対に、それぞれの意味が似通っている語の場合、もしくは、同じ広い意味を持つものである場合、正しいニュアンスの意味を見つけることは大変難しくなります。

正しい意味を見つける

乏しい内容の例文では、多くの学生が意味を超えた語の情報を探しているときには、特に、難しくなります。

例から学ぶ

辞書には文法情報や音韻の情報がたくさんあります。しかし、どちらにも特別なコードやシンボルが使われてます。これらの情報は、全く別な外国語のように見えるので、学生は敬遠してしまうのでしょうか。また辞書の中に語の情報全てを載せるわけにはいかないので、見出し語には学生が欲しい情報が十分にはないかもしれません。

見出し語の意味を掴む

こうしたことによって、学生の側には欲求不満が溜まっていきます。辞書の中の文法情報の中には、例えば「その語には、直接目的語が必要である」というような役に立つものがあるかもしれませんが。ところが学生には、その語にはどんな直接目的語が必要なのかということまではわかりません。幸いなことに、*Oxford Learner's Wordfinder Dictionary* にはこうした情報が掲載されています。

11. 学生はいつ辞書を使うべきでしょうか？ また、使ってはいけないときはどんな場合でしょうか？

語彙と、辞書の使い方を教えることの長期目標は、学生を教師や辞書から離れて一人立ちさせ、語彙の問題を抱えたときの「二ヶ国語辞書反射」を克服するように手伝えることなのです。つまり、学生がどのように未知の語を扱うのかを学ばせ、どうしても必要なときだけに辞書を使わせることなのです。

辞書のトレーニングにかかった時間は、結局は、何倍にもなって、プラスになって戻ってきます。

辞書を使うかどうかは、今行っているタスクによって異なります。学生が会話の練習や読書など流暢さが問われるような作業をしている場合、辞書の使用は、コミュニケーションの流れをひどく損ないます。ただし知らない語のためにコミュニケーションが完全にできなくなったときには、まずコンテキストからその語を推測させ、それから、どうしても必要な場合にのみ辞書を使うよう指示しましょう。反対に、今しているタスクに語学学習の要素が含まれている場合、辞書を先ず第一のツールとして使っても良いこととなります。

しかし、どちらの場合にも、学生は辞書を調べる前に、未知の語を推測しようとしなければいけません。それには、いくつかの理由があります。

- ・学生達は辞書から離れ、一人立ちできます。
- ・学生は、その語のことをもっと深く考え、推測がもっと上手になります。
- ・精神的努力をしなければいけないので、その語を記憶する可能性は高くなります。

同じように、もし、教師が語の訳を与えるだけでしたら、学生が独立した学習者になるチャンスを奪っていることとなります。それは、教師の知識に寄りかかった助けなのですから。ですから、すぐに訳を教えないで、学生に独力で学ばせる方が親切なのです。

調べる前に推測すること -
上手に意味を推測する方法

これまでの研究では、文章中のほとんどの語が知っている語でなければ、学生はうまく推測することができないということがわかっています。成功する推測とは、文章中の語の 95 ~ 98 %を知っている場合に起こるのです（これは、20 語から 50 語の文のうちで 1 語が未知の語であるという状況です）。もし、その比率がこれより低い場合には、文章が難しすぎるということですから、成功する推測は起こりにくくなります。ですから、文章に未知の語がたくさんある時には、語の意味を学生に推測させようとしても、失敗に終わることが多いのです。教師は、比較的簡単なテキストを使って、コンテキストから推測するアクティビティを用意しなければいけません。

スムーズに読むことによって、知らない語を推測することを学ぶには、いくつかのステップがあります。

・ステップ 1

まず学生は、知らない語に出会っても、それを無視して読み続けなければいけません。もし、それが重要なことならば、再び文章中に出てくるでしょうから、学生はもう一回その時に推測することができるのです。その間にも、文章の他の部分の意味に集中しなければいけません。学生は、知らない語をそのまま読み続けるということを学ばなければいけません。

・ステップ 2

知らない語のために読解ができない場合には、学生は、その語の品詞が何であるかを見つけだします。例えば、それが動詞なのか名詞なのかを見極めます。

・ステップ 3

そこで、一番近いコンテキスト（この場合にはセンテンス）を見て、語の意味を決めます（例えば、ある種のアクションを表す動詞である等）。大切なことは、その時には、そのセンテンスを完全に理解する必要はないのです。センテンスがなんとか理解できるほどで十分なのです。

・ステップ 4

次は、推測をチェックすることです。知らない語に、推測した意味を試しに充ててみて、そのセンテンスが意味をなすかどうか、もう一回センテンスを読み直します。この段階では、学生は語の部分的な知識も利用して、その推測をチェックします。例えば、もし学生が mis- に否定の意味があることを知っていれば、知らない語である mistranslate が「訳す上での間違い」であるということに気が付きます。ただし、この知識を意味を考える前に使うと、間違った意味を推測する危険性があります。例えば、学生が pre-war のように、pre- に before の意味があると知っていれば、president が before sident と思ってしまうかもしれません。ですから、このような場合は意味を始めに考えなくてははいけません。

・ステップ 5

もし、センテンスが意味を成したら、学生は読みを続けます。しかし、推測がうまくいなくて、読解がうまくいかなければ、学生はステップ 3 に戻って、もっと幅広いコンテキストを使わなければいけません（例えば、数行前に戻ったり、知らない語の後を見るなど、いくつかの方法があります）。

・ステップ 6

最後に、辞書を使って推測したことを確認します。

12. 授業での辞書使用を奨励する

教師が辞書使用を奨励するためにできることがいくつかあります。

学生は、辞書の定義する語彙に慣れて初めて、学習者用辞書を快適に使うことができます。

- ・ 学生の辞書使用に関するスキルを伸ばしていく機会を常に探しましょう。
- ・ 教室でのアクティビティを魅力のあるものにしたら、辞書が嫌いな学生でも手を伸ばします。楽しいアクティビティは、学生の動機付けに影響を与えます。
- ・ 辞書使用を授業と切り離すのではなくて、授業の中に組み込みましょう。そうしたら、学生は辞書を語学学習の不可欠な部分とみなすようになります。
- ・ 学生に辞書を使わせるときには、教師も辞書を引いて、自分で使いましょう。そうしたら、アクティビティにどの位の時間がかかるのかがわかり、学生がどんな間違いをするのかが判ります。
- ・ 学生が辞書を引くのを急がせてはいけません。語や意味を選ぶ際に、スタートを誤ったり、語や意味を間違えて選択したりしてもよいのです。
- ・ 辞書をうまく使えたことや、使えなかったりしたことを学生と話し合う必要があります。
- ・ 授業の終わりの 5 分間などを使って、辞書を見たり、使い方を探るのに時間をかけましょう。これには特にピクチャー・ディクショナリが役に立ちます。
- ・ 後からくる学生を待っている場合など、授業で使ういくつかの語を黒板に書いておきます。待っている学生達は、授業が始まる前に、これらの語を調べておくことができます。
- ・ 可能であるならば、テスト中の辞書使用を認めましょう。特に、重要なテストでないならば、是非、使わせましょう。辞書に全く頼ることがないというのは、不自然ですし、学生には使いたい時に辞書を使わせるべきです。または、テストの提出直前に、学生に辞書を使わせ、テストのできをよくさせることもできます。それによって、辞書が役立っているということを学生にわからせることも可能です。

・語彙の目標を設定しましょう。学生に、毎日、新しい語を3語から5語、自分で見つけるように指示したら、大方、この目標は達成されます。しかし、このような教師の指示がなければ、学生が自発的に学習することはないでしょう。学生たちは、自分が選んだ語について、ほかの学生と話し合うことができます。学生が辞書を使い出したら、教師は、学生が辞書を効果的に正しく使っているかどうかをモニターします。辞書に依存することと辞書から離れて一人立ちすることとのバランスをうまく取ることを知っておかなければいけません。

13. 辞書の使い方トレーニング

このセクションでは、辞書のトレーニングをいつ、どうやって始めるのかに注目し、アクティビティの例をご紹介します。こうしたアクティビティは、*Oxford Resource Books for Teachers* シリーズの *Dictionaries* (Jon Wright 著) の中でたくさん紹介してあります。

辞書のトレーニングは、1時間だけではできません。何ヶ月も、授業の一部を割いて、学習者辞書使用に自信が持てるように、ゆっくり進まなければいけません。そんな時間はとれないと言う教師もいますが、学習者辞書を効果的に使うことを学ぶことは時間がかかりますが、トレーニングにかかる時間は、長い目で見れば、後になって、何倍にもなって戻ってきます。

理想的には、辞書を使う前のトレーニングは、二カ国語辞書を使う前にすべきなのです。学生が辞書の教示を全然受けていないようでしたら、今すぐ始めるべきです。

トレーニングの中で、達成したいと思う重要なことがいくつかあります。

- ・学生に、辞書の中に何があり、どこにあるのか、それがどんな風に役立つのかなどを理解させるようトレーニングすること。
- ・学生が毎回上手に使うことができるように、辞書の使い方を徹底させること。学生が自信を持って辞書が使えるようになること。
- ・学生に辞書をいつ調べるべきなのか、また、どんなときに調べてはいけないのかを理解させること。

学習者辞書をうまく使うまでには、時間がかかりますが、そのかかった時間は、無駄にはならないのです。

トレーニングは、いつ始めるべきなのでしょう？

トレーニングでは、何を達成するのでしょうか？

辞書使用のトレーニングは、どんな種類でも、全ての学生が同じ辞書を使っていれば、ずっと簡単になります。これは、必ずしも可能ではありませんが、もし、学生が学習者用辞書をまだ購入していないようでしたら、教師はクラスの全員に同じ辞書を買うよう勧めましょう。そうしたら、学習がスムーズになります。または、学校側で、2、3人に1冊とか、教室用のセットを購入して、どのクラスでも使えるようにしたらよいでしょう。

辞書のトレーニングには、どんなステップがありますか？

辞書の上手な使い手になるためには、いくつかのステップがあります。学生が自分の辞書を使い始める前に、そのトレーニングを始めましょう。これを、辞書使用前トレーニングと呼びます。辞書のトレーニングは、学生が知っている二カ国語辞書を使って始めます。学習者用辞書は、もう少し後になってから紹介します。学習者用辞書へは、徐々に移っていきます。次の表に、その要約を述べましょう。

習熟度別による辞書の使用

習熟度	使用する辞書	目的
初心者	主に二カ国語辞書。	二カ国語辞書で学生を安心させるが、それに依存させないようにする。
初級の低いレベルから準中級者	始めは、二カ国語辞書。学習者辞書もチェックする。	学生に負担をかけないように、学習者用辞書を導入する。
準中級者から中級者	始めは学習者用辞書。必要であれば、二カ国語辞書でチェックする。	学習者用辞書の使用が負担に感じさせないようにする。
高いレベルの中級者	主に学習者用辞書。	学習者用辞書の使用は、たいていの場合、成功するということを納得させる。

辞書のトレーニングのためのアクティビティの例

辞書のトレーニングの中には、語彙のトレーニングのためのアクティビティも含まれます。まずはじめに、辞書で出会った語をどうやって処理すべきなのかを考えてから、実際にこれらのアクティビティを使って、学生が辞書を使うのを助けていきましょう。これらのアクティビティについては、後の項で説明します。

辞書のトレーニングの大事な部分は、辞書で引く語彙を効果的に処理することを学んでいくところです。もし、語彙の学習が効果的であるならば、語を忘れることはないでしょうし、何遍も同じ語を調べるようなことは起こらないでしょう。語を学んでいくときの学生が抱える大きな問題の一つに、人間の記憶の問題があります。記憶は、すぐに思い出そうとしなければ、忘れてしまうという特徴があります。学生がある語に始めて出会って、すぐそれにまた出会うことがなかったら、その語は間違いなく忘れてしまうでしょう。ですから、その語を学ぶためには、繰り返しその語に何回も出会わなければいけないのです。ただし、語を覚えておく方略は、辞書のトレーニングのための大きな目的の一部に過ぎないこと意識しておかなければいけません。よく使う方法は、小さな**ワードカード**を使った**ワードバンク**を用いていくことです。

トレーニングによって、語彙を覚えていく - ワードバンク

ワードカードを作る時間は、簡単に見つけられます。難しいのは、それを覚える努力をすることです。

学生に、どこの文房具屋さんでも売っているような小さなカードに学習する必要のある語を書き取らせませす。この語は、教師によって指定されたものでも、生徒自身が選んだものでも構いません。カードの表側に、スペリングとストレス付きの発音を書き、裏側に意味を書きます。日本語でも、絵でも、学生が語を覚えていられるどんな方法を使ってもよいのです。品詞も同時に書いておけば、役に立ちます。

学生は、1つの語につき、1枚のカードを用意しますが、1つの語の中の意味がたくさんある場合には、別々のカードを用意します。これらのカードを“My Word Bank”とラベルを付けた小さな封筒に入れておきます。学生は、どの授業にもその封筒を持っていきます。授業の始めと終わりに、5分間かけて、そのカードを覚えるようにします。学校へ行く電車の中でもよいのです。ワードバンクを開けて、カードの片側だけをみて、もう片側を思い出すようにします。もしくは、友達にテストしてもらってもよいでしょう。こうすると、語を忘れることはありませんし、辞書を苦労して引いたことも無駄にはなりません。しかし、古いワードカードを使った学習の時間を授業中に設けておかなければ、語を忘れてしまいますので、学生の努力は水の泡になってしまいます。時間を見つけてカードを作ることは簡単です。覚えることが大変なところなのです。

辞書で調べたもの、そうでないものにも関わらず、全ての新し

い語はワードバンクに入れます。ですから、学生はどの授業にも白紙のカードを持ってこなくてはなりません。多くの教師がやっていることは、新しい語を黒板に書いて、それを学生に新しいカードに写させることです。学生は、自分のワードバンクを系統立てる素晴らしいアイデアを持っています。大事な語に星印を付けたり、品詞別に違った色のカードを使ったりする学生もいます。

辞書を使う前のトレーニング

全てのオックスフォード大学出版局の辞書には、学生のために、辞書用の練習問題を用意しています。

この最初の段階の辞書のトレーニングは、学生が辞書を調べ始める前にするものです。この段階で、学生はアルファベットとその順番を知らなければいけません。

アルファベットの順番を学ぶ

学生が既に学んだ 20 語を、ランダムに黒板に並べます。学生は、競争して、ワードカードに書き写し（正しいスペリングで）アルファベットの順に並べ替えます。辞書を使う準備ができたならば、カードの裏に意味を書き入れ、でき上がったカードを、語彙の勉強のために使います。

間違いやすい文字で勉強する

前と同じですが、学生が間違いやすい文字を含んだ語のリストアップをします。例えば、p、q、b、d は、似ているので、pan、ban、Dan や、lamb、pamp、damp、drab などの語を使うとよいかもしれません。この練習には、いくつかの方法があります。もし、ある語が 2 回リストに出てきたら、それをペアにしていけます。もしくは、語をペアにして、リストに出します。そのうちのいくつかは、同じ語にし（ban と ban）、違う語のペアも作ります（dan と ban）。リストの中で、違った語を持つペアに丸で囲みます。

辞書を使ったトレーニングを始める

トレーニングを効果的にするために、全ての学生は同じ辞書を持ちます。もし、そうでない場合には、何処から辞書を借りてきたり、共有することもできます。多くの学校では、教室に備え付けの辞書が何冊かあります。トレーニングに取りかかる前に、どうして、辞書のトレーニングが彼らにとって大事であるのか、結局は、彼らが自主的な学習者になるために役立つのだということを説明します。

教師は、辞書の各セクションを、ここは、イントロダクション（ここは、学生が読むべきです）見出し語、付録と言った具合に、指し示していきます。学生に、何処にどんなものがあるかを調べさせ、ページ数を書き留めさせます。

辞書のオリエンテーション

学生にある語を引かせます。例えば、boat とか、choose を調べさせましょう。この段階では、1 つだけの意味を持つ語を選んだ方が無難です。それぞれの見出し語にいくつの違った部分があるかどうかを探させます。見出し語、語尾変化や派生語、可算名詞か不可算名詞かどうか、動詞の語尾変化を示す文法コード、発音、意味、例文などを確認します。これをはっきりさせるために、教師は辞書の見出し語をハンドアウトに大きく書き出し、学生に配ります。見出し語のそれぞれのセクションには、矢印を付けます。学生は、ハンドアウトのそれぞれのパートにラベルを付けていきます。

見出し語のオリエンテーション

意味を探すことは、学生が辞書を使ってする主なアクティビティの一つです。ですから、この成功率を高めるために時間をかけます。学生は、いくつかある意味の中から、最もふさわしいものを選びます。学生に、その語がそれぞれのセンテンスの中で同じ意味や違う意味になっているペアになったセンテンスを渡します。I'm just going to the bank. や The boat moved nearer and nearer to the river bank. のような簡単なペアになった例文を見せます。例文が簡単でしたら、学生はその語が自分が知っていた意味とは違うときには、すぐにわかります。また、どのセンテンスが同じ意味で、どれが違っているのかを選ぶこともできるでしょう。前の項で述べたように、辞書を調べる前に、知らない語を推測することができるのです。大事な点は、それを学生に思い出させることです。チームを作って、ポイントを取らせていくこともできます。ポイントの取り方は、a) 意味を正確に、もしくはほとんど正確に推測する、b) 辞書の中の意味を正しく選択する、等があります。もう一つ大事な点は、どんな間違いを学生がするのかを見ておくことです。教師は、どうして学生がそのような間違いをするのか理解する必要がありますし、ただ答えを与えるよりは、どうしてそれが起こったのかを学生にわからせるようにします。このことは、独立した辞書の勉強と独立した言語学習を強化しますし、教師への依存を少なくします。

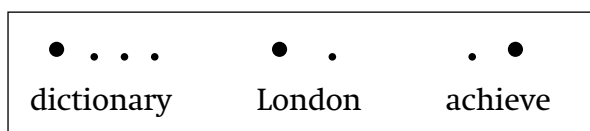
特別な意味を探す

辞書を使って語を速く探す 辞書を使って、語を素早く探すことを教えます。学生が知らない練習をする けれど、じきに教科書に出てくるような語のリストを作ります。学生一人一人にコピーを渡します。黒板に一回に1語ずつ書いて、チームの中で競わせ、語を見つけさせます。授業の終わりに、黒板にもう一回、語を書いて、その語の意味が思い出せるかどうかを確認します。この時、各チームに1ポイントあげます。別の授業の時にもこれを繰り返せば、忘れることはありません。このアクティビティは、語彙を増やしてだけでなく、書かれた語を認識するスピードを上げていきます。

見出し語から発音を見つける これは、発音記号を学ぶことも含まれます。これは、このガイドブックの裏表紙中側にも明記してありますし、どのオックスフォード大学出版局の辞書にも出ています。発音記号を覚える一番速い方法は、ワードカードに書いた語の1つ1つに発音記号を書いていくことです。片側に1つの記号を書き、その裏にその記号を含む語をいくつか書きます。学生は、語彙のワードカードを覚える時に、発音記号も覚えるのです。/b/、/t/、/l/のような簡単な記号から始めて、/dʒ/、/j/や母音のような難しいものに徐々に移っていくのがよいでしょう。簡単に発音記号を練習する方法は、ハンドアウトのページの真ん中に語のリストを、その外側に語の発音記号をランダムに並べます。英単語と発音記号とを結びつけていきます。これがうまくいったら、同じように友達同士でテストすることもできます。

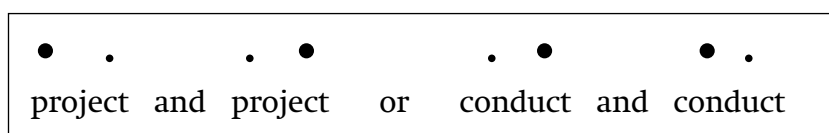
音からスペリングを見つけだす 発音記号とスペリングを結びつけることができるようになったら、音から語のスペリングを推測することをできるようにします。これができたら、読んだ時と同じように、耳で聞いた語を調べることができるのです。これは、実は、非常に難しいことなのです。例えば、/kerk/は、cかkで始まるとわかります。しかし、練習をすれば、どのように音とスペリングが合っているのかという感覚が掴め、辞書をもっと効果的に使えるようになります。ここでも、bank /bæŋk/や cat /kæt/のような規則的な組み合わせから始めて、難しいものに移行していくのがコツです。Ate /eit/や eight /eit/のような単語を使って、スペリングと発音記号を組み合わせる作業は、もっと後になってからします。

語のストレスを学ぶとき、学生は正しいストレスを選ぶ前に、その語がいくつのシラブルからなっているのかを見つけなければいけません。例えば、government は、go-vern-ment という 3 つのシラブルからできています。学生には、例をいくつか示してあげましょう。学生が知っている語から選んで、1 つの語にいくつのシラブルがあり、どこで切れるのかを尋ねます。例えば、1 つの語を “con tem po ra ry” の様な塊に分けさせます。または、それぞれのシラブルに小さな丸を付けさせます。ストレスが強いところは、大きくします。



語のストレスに気が付く

語によっては、2 つのストレスを持つものや 2 つのシラブルパターンを持つものもあります。



学生が知っている語の中で、このような 2 つのパターンを持つ語のリストを学生に渡します。新しい語を教えるときには、学生は発音を調べて、正しい数のシラブルで、正しいストレスで、その語を発音しなければいけません。学生に、ワードカードのシラブルとストレスに印を付けさせます。

2 種類の問題があります。同じ発音で、違ったスペリングを持つ語 (bare と bear) や同じスペリングを持って違った発音をする語 (read /red/, read /ri:d/) があります。こうしたものに慣れるために、韻の合う語を使って、組み合わせていくようなゲームをすることもできます。

同じような語の問題

語を調べるときに、学生が会うであろう問題をみてきました。語は、辞書の中の思っていたところがない場合があります。unfaithful は、u で探すのでしょうか？もしくは、f で探すのでしょうか？つまり、正しい場所で語を探せるように、簡単な接頭辞の多く (un-, im-, non-) を理解しておく必要があります。屈折

不規則語や語尾変化のある語を見つける

語尾 (-ed、-ing、-e、-es) や、よく使われる接尾辞 (-ation、-ly、-er、-est) も知っておく必要があります。期待していた場所に語が見つからないことに学生を慣れさせるためには、よく使う接頭語や接尾辞を紹介し、何処の見出し語を探せばよいのかを決めさせます。ここでも、簡単なものから始めて、難しいものに移ります。

結論 学生がマスターしなければいけないスキルは他にもたくさんあります。ここに、そのスキルを挙げてみます。

- ・派生語から見出し語を見つける。
- ・二番目の意味を見つける。
- ・ニュアンスを見つける。
- ・辞書の相互参照をどのように使うかを学ぶ。
- ・未知の語を重要だと思われる順にランク付けさせ、一定の時間内にどの語を調べるかを決めるといったトレーニングをする。

オックスフォード大学出版局の辞書や Jon Wright の *Dictionaries* などには、学生が辞書を使って勉強していくためのアイデアが紹介されています。ぜひ活用してみてください。

14. 語彙の扱い方

どんな語を学ぶ必要があるのでしょうか？

幸いなことに、学生は辞書に出てくる全ての語を覚えておく必要はないのです。なぜなら、全ての語が役に立つわけではないからです。しかし、学生にはどれが学ぶべき語で、どれが学ばなくても良い語か判断できません。現代のすぐれた辞書は、見出し語に印を付けて、どの語が最も役に立つのかを示しています。Oxford Wordpower Dictionary は、最も頻繁に出てきて役に立つ語に、 を使って、ラベルを付けています。学生がこれらの語を調べたら、すぐに注目しなければいけない語であることに気が付きます。その語に が付いていないときには、その語はそれほど注目しなくてもよい語なのです。

学生が自分が調べた語を覚えているわけではないのはなぜでしょうか？

記憶の研究で示されているよう、学生がその語について何回も考えさせられるような状況があれば（例えば、例文や文法を見て、オリジナルのセンテンスの中で使うことなど）忘れることは少なくなります。リーディング・アクティビティをしている学生が、急いで意味を掴むために語を調べて、すぐ忘れてしまうのはこの

ためです。語に浅いレベルで関わるのは、忘れてしまう可能性が多いのです。学生にとって、フラストレーションになることの一つに、既に前に調べて印を付けている語をもう一回調べて、すっかり忘れてしまっていたことに気が付くことがあります。前に説明したように、ワードカードを使うことは、この問題を解決するのに役立ちます。また、グレイディッド・リーダーを使ってたくさんスムーズなリーディングをすることも問題解決に役立ちます。

その語を調べる度に、その隣に✓のマークを付けさせます。次に、また、そのページに戻ったときには、そのマークをみて、記憶を新たにすることができます。または、ハイライトペンを使ってもよいでしょう。

多くの学生が語彙のノートを作っています。でも、何を記録しているのでしょうか？ ノートには、語や意味や文法情報が書かれています。でも、ノートに情報を書けば書くほど、学生がそれを思い出そうとする時間は少なくなります。ですから、本来はスペリング、発音（もし、不規則なものであるならば）、語が見つかったセンテンスだけ記入すれば十分なのです。

また、書き言葉、フォーマル、スラング、米語、などの語法に関する情報は、記録しておいた方がよいでしょう。言語に関する意識を高めるのに役に立ちますし、その語にもっと特徴を付けてくれます。

学生が語を覚えておくのに役立つ方法にはどんなものがあるのでしょうか？

語彙のノート

「日本語版指導の手引き」がご利用いただけるタイトル

Business Venture

J-Talk

Learners' Dictionaries

New Person to Person

New Headway

Open House

Oxford Graded Readers

Passport

The Oxford Picture Dictionary

Tactics for Listening

Transitions

Words in Motion

英語教育に携わる大学の先生方のために

OXFORD
Campus
Support
service

オックスフォード・キャンパス・サポート・サービス

大学の英語の先生の具体的なご要望にお応えする、先生のための会員制組織です。

- ▶ 小社のウェブ・サイトの「会員専用」サイトにアクセスできます。ここには貴重な提案や、指導に役立つ内容が載っています。
- ▶ ご興味のある専門の分野についての新刊の採用検討見本が送られます。
- ▶ ご採用の際にはスチューデント・ブック、聴覚教材、ティーチャーズ・ブックを含む、無料の「ティーチャーズ・サポート・パック」が送られます。
- ▶ 大学内や地域での教師仲間を通して、「ブック・ルック」（小社のレプレゼンタティブによる新刊書の説明会）の開催を要請できます。

入会金・会費は一切無料です。

www.oupjapan.co.jp

より、今すぐご登録下さい！